

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(講義) Humanistic Informatics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	論理学の歴史：アリストテレスから情報論理学まで										
【授業の概要・目的】											
アリストテレス以来の西洋論理学の歴史に就いて、(a)現代の記号論理学に繋がる系譜と、(b)日本における論理学受容の系譜、の二つを解説する。現在は論理学のすべてを現代記号論理学の立場から理解しようとする傾向が支配的で、論理学史も例外ではない。しかし、記号論理学以前の論理学は、クリティカル・シンキングや、ITのオブジェクト指向などの「実用的分野」の中に現在も生き続けている。一方で、記号論理学は期待に反して現実と乖離している。それらのことと、その理由を理解してもらうのが(a)、また、その観点から、日本人が明治時代に輸入された「論理学」というものと、どの様付き合ってきたかを明らかにするのが(b)である。講義では、この二つを関連づけて同時に説明していく。											
【到達目標】											
現代の日本や英語圏で「論理学の歴史」と言えば、単純な進歩史観に基づく議論が多い。本講義では、こういう単純な誤った立場を退け、歴史学的観点から客観的に歴史過程を分析する力を養うことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を、それぞれ1から3回程度講義する。ただし、順番は、この通りではない。 1. アリストテレス論理学：伝統論理学 2. 明治日本の論理学：経国の道具としての伝統論理学 3. 記号論理学の誕生：伝統論理学との違いを中心に 4. 新カント派の論理学：現代論理学へのミッシングリンク 5. 伝統論理学と情報技術・人工知能 6. 京都学派の論理：西田幾多郎・田辺元の論理(学) 7. 日本人と論理(学)：明治、昭和、平成の「論理ブーム」											
毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポートにより採点する。											
----- 情報・史料学(講義)(2)へ続く -----											

情報・史料学(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

教科書は使わないが、毎回、詳細な講義資料を作成し、それを講義のサイトで公開する。

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

基本事項から説明するが、項目が多いので、各自、講義資料、講義中に紹介する参考文献などでの復習が必要である。参考文献は講義のためのサイトに掲示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。